

背景および経緯

共同研究のきっかけの形態は様々であるが、主には①学会発表、②特許・シーズ展、③企業からの技術相談、である。共同研究は「企業側のニーズ（既存の技術的課題の究明、製品の評価・分析の依頼、新規研究開発）があって、それに対して大学が保有する技術で解決できる可能性がある場合」に立ち上がる。したがって、企業側のニーズに応えることができる技術を大学が有していることをPRすること、さらに、そのPRの仕方を工夫することが、今後の産学連携活動（共同研究等）を活性化させるために重要である。そこで、「①わかりやすい内容で大学の技術を紹介」かつ「②広く効果的に発信」、この2点に重点を置いた「**共同研究のきっかけづくりに資するシーズ・特許等紹介サイト**」が必要である。

現行の「三重大学シーズ集」

- ・学内のほぼ全ての教員の研究成果や保有する技術を紹介。
- ・本学の全教員の研究概要を、シーズ集としてWebに掲載しておくことは重要。

一方で、

- 専門的な表現、内容に偏っていることが多い。
(企業側にとってわかりにくい)
- 教員が自身の情報をアップデートしない限り同じ情報のまま。
(定期的に全情報を更新したり、新しい情報のみを発信することがシステム上困難)

大学の技術シーズが十分に伝え切れていない。
大学がPRしたい技術や特許を効果的に発信できる仕組みがない。

解決方法

- ①「わかりやすい内容で大学の技術を紹介」
- ②「広く効果的に発信」

サイトの趣旨

①「わかりやすい内容で大学の技術を紹介」

企業に活用してもらいたい、特定の特許・技術シーズを取りあげた**コンテンツ**



漫画



動画



スライド

【例】

- (1)本学と企業での共同研究の取組みの成功事例を紹介した漫画
- (2)企業ニーズが多い分野の技術シーズをわかりやすく紹介した資料
- (3)ライセンス先や共同研究先を募集している特許等を解説した資料

※大学の有する技術を共同研究により活用することで
・何が出来るか、・想定される用途、
・既存の一般的技術と比べてどのような優位点があるか
等がわかる資料。

②「広く効果的に発信」

- 定期的に作成、発信
- facebook、twitter
SNS等を通じて発信

facebook



YouTube

- ・企業
- ・商工会議所
- ・自治体等

三重県、東海・関西地区
に限らず全国へ

わかりやすい資料を発信して
共同研究のマッチングを促す

○平成29年度以降も順次コンテンツを追加し、定期的に発信する。また、コンテンツ作成方法や発信方法等改善しながら運営する。